今話題の２年目の

どんなところが

共通テストはセンター試験と変わったのか!?

長年にわたりおなじみだったセンター試験に代わって行われた「大学入試共通テスト」の第２回目が１月15日、16日の両日にわたって実施されました。お子さん、お孫さんの大学入試において避けて通ることの出来ない、共通テストとは「どのようなテスト」なのか。ちょっと知的な情報として「Oh！とくだね」読者の皆さんにお届けしたいと思い、今年も特集を組んでみました。

今年も昨年に続き大学入試情報に詳しい文理スクール文系教科長の山田智規先生をお招きして「見えてきた共通テスト」についてお聞きしました。

酒井：山田先生、今日はよろしくお願いいたします。早速ではありますが、２年目の共通テストはいかがだったでしょうか？先生が日頃相手にされている受験生とは違い、入試制度にあまり詳しくない一般の読者の方々にもわかりやすく教えていただけますか？

山田：はい。国語は、共通テスト第１回目では従来のセンター試験とほぼ同じ問題形式が出題されていました。浪人生への配慮やコロナの影響もあったとわれます。しかしながら、今回は試行調査のような問題が幅広く出題されました。特に第１問、第３問が大きく変わりました。しっかり日頃から対策していないと厳しい試験だったと思われます。英語は、共通テストではリーディングには発音や文法を単体では入れないと断言されていたため、ガラっと変わった昨年の問題からは大きな変更はありませんでした。

酒井：昨年、大きく変化した英語は昨年の傾向を引き継いで、昨年あまり変化のなかった国語は今回大きく変わったという事ですね。専門家の山田先生からみたら国語が大きく変わったとの事ですが、私は試行テストの問題例が発表された時に、一般の人でも衝撃を受けたような実用的文章（※1）が、昨年に続いて今回も国語で出題されず、私的にはちょっと肩透かしをうけたように感じました。ただ国語ではなく政治経済で試行テストの国語と似たような問題（※2）が出題されていましたね。山田先生は今後共通テストが、どのように変化していくと予想されていますか？

山田：試行テストの問題例のように大きく傾向が変わった場合、受験生や教育現場に与える影響が大きいので、一気に出題傾向が変わるのではなく、二〇二五年の大学入試改革完全実施に向けて徐々に変わっていくという事だと思います。今後も徐々に共通テスト要素が色濃くなっていくと思われますが、同時にセンター試験で良かったところは残すというような取捨選択も行われ、受験生の得点分布等も考慮されながら出題内容が確定していくと思われます。

酒井：受験専門家の視点から見るとそんな感じなんですね～。ところで今年の「共通テスト」の難易度はいかがだったのでしょうか？

山田：今年は難しかったですね～。マスコミ等からも戸惑った受験生も多いと聞こえてきますし～。そして今回はセンター試験時代も含め平均点は過去最低の予想です。コロナ禍だからと言って共通テストの変化は待ってくれない。新学習指導要領完全実施に向けて、確実に移行されて行くという悲しい事実も証明された共通テストであったと考えています。

酒井：今回の共通テストは難しかったという事ですが、その理由とかはありますか？

山田：私の担当科目である国語においては、本文よりも各選択肢の言葉づかいの操作が、より受験生を惑わせ、結果的に平均点が下がる一因になったのではないかと分析しています。一つ一つの選択肢が紛らわしく、ぱっと見、同一内容を話している選択肢同士で迷って戸惑った人が、少なからずいるのではないでしょうか？また数学・理科でも新しい傾向の「共通テスト」的な知識と、その場でとっさに判断をしなければならない問題が多数出題されまして、意表を突かれたり、戸惑ってしまった受験生が多かったようです。以上のような傾向は、来年以降ますます顕著になると思われます。

※次ページに続く↓

文理スクール
教務課長 山田 智規先生

愛知・岐阜に8校舎を展開する「今でも生授業にこだわり続ける」文理スクールで文系教科長を務める。同じ授業を同じ日に連続して授業をしないといけないほど教室をいっぱいにする人気講師。人気の秘密は授業を受ければわかる!

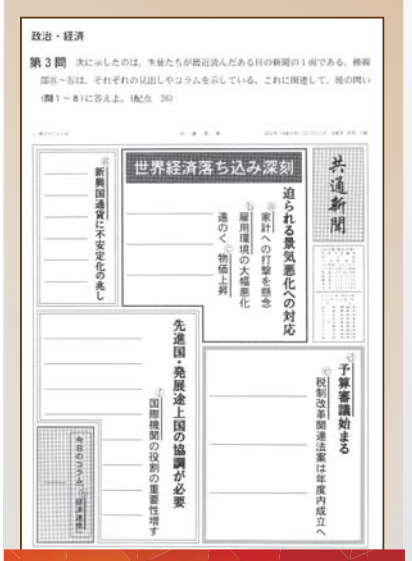
アンイングリッシュGROUP
学長 酒井 秀樹

愛知・岐阜に直営 53教場を運営する傍ら、趣味で教材制作を 30 年以上にわたって継続し、全国の学習塾に向けて各種教材の開発販売を手掛けている。入試問題の出題傾向の分析及び研究をライフワークとし、入試問題の山張りで多数的中させてきた。

※1

平成 29 年の試行テストの出題例。こういう問題や契約書を読み取る問題等の出題が予想されていたが、今回は出題されなかった。しかし、来年以降出題される可能性も･･･。

※2



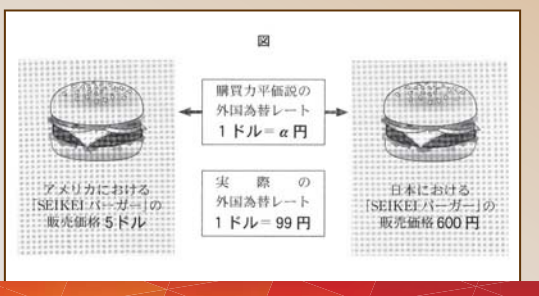
今回の共通テストでは、試行テストのような出題が、国語では出題されなかったものの「政治経済」で出題

↓※前ページより続く

酒井：では次に山田先生から見られて、受験に詳しくはない一般の読者の方が見ても、大学入試の問題にこんな問題が出るんだ～と思えるような問題をいくつかご紹介いただけませんか？

山田：はい。今回の共通テストで一番話題になりそうな問題はこの問題ではないでしょうか（※3）

※3

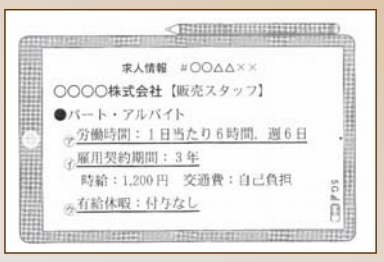


世界の物価比較で話題のビックマック指数が出題

酒井：有名なビックマック指数を模した問題ですね～。マクドナルドが世界中に展開していて、類似の商品が提供されているのに、提供される国の物価によって販売価格が異なるという事を題材にした問題ですね。

山田：この政経問題（※4）やこの物理の問題（※5）なんかはどうでしょうか？

※4



これぞまさに生きる力！

酒井：このアルバイトの求人情報を読んで内容を理解するというところなどは、まさに文科省が提唱してきた生きる力をそのまま体現した問題ですね～。そしてこの物理の王女さんと細工師の言い合いと、そこで行われる実験から正しい解を導き出す問題は正に新傾向と言える出題ですね～

山田：政治経済、現代社会に限らず、英語・数学・理科でも全般的に、センター試験時代よりさらに時事ネタや身近な話題から問題が出題されていたり、表や統計資料を理解して読み取るような問題が多数出題されています。

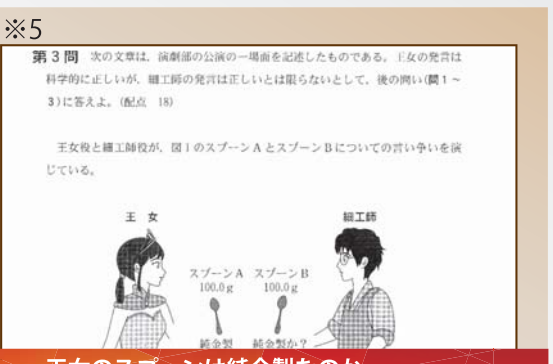
酒井：山田先生のご専門の英語でも面白い問題が多数出されているようですが、いくつかご紹介いただけますか？

山田：例えば、この問題（※6）はどうでしょうか？

酒井：このプラスチックのリサイクルに関する問題は SDGS に関連する問題という事で、まさに時事問題を英語にした出題ですね。

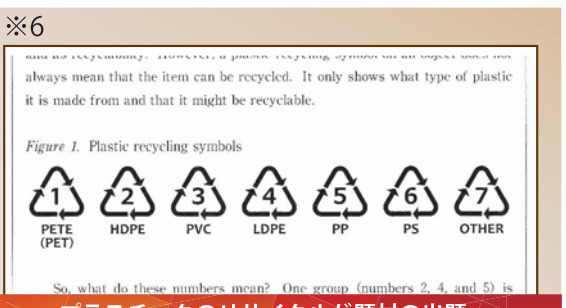
山田：日本でも使われているプラスチックのリサイクル表示の問題ですが、よく見ると日本のリサイクル表示とは異なりさらに細分化されています。実はプラスチックは海外では耐熱温度、用途、目的、人間に対する害の有無等によって分類がなされており、それぞれどんな特徴があるのかを文章から判断しなければならないという難しい問題でした。ここでもわかることですが英語を「分析力 × 環境ジャンル」で理解するように、多岐にわたって受験生の能力を試していますね。

※5



王女のスプーンは純金製なのか
それとも混ざり物が入っているのか!?

※6



プラスチックのリサイクルが題材の出題。
まさに SDGS。時事問題どまんなか！

酒井：その他には一般の人でも興味を持てそうな問題はありませんか？

山田：今回の共通テストには、一般の人にも興味を持っていただけそうな身近な題材をテーマにした問題が多数あるんですがこの問題（※7）はいかがでしょうか？

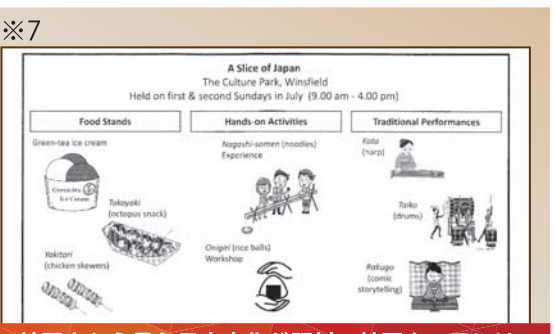
酒井：この問題いいですね～。アイス、たこ焼き、焼き鳥、おにぎりや流しそうめん、太鼓、琴、落語などの絵が出ていてなじみやすそうですね。

山田：日本文化は海外でどのような感じで知られているかという問題で、一見さきほどの問題と同じように異文化理解がテーマになってはいますが、よく考えると対照的であることに気付きますか？冒頭を読むとイギリス人が書いたブログを日本人が読んでいます。異文化理解を深く考えていくと、日本から海外という一方通行ではなく、逆に日本文化が海外にどう伝わっているかを再認識する必要もあるという出題で興味深いですね。

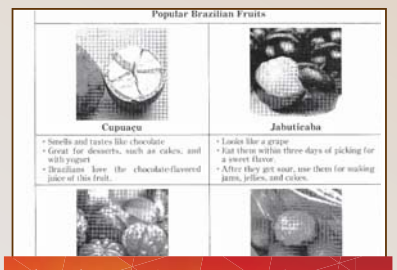
酒井：山田先生ありがとうございました。先生がおっしゃられるような視点で共通テストを分析していくと、とっても身近で馴染みやすいものになりますね。昨年も高校生の時に山田先生と出会えていたら、もっと成績がよかったかも～というお声を読者の方々から頂きました。今回は第２回の共通テストについて山田先生にお聞きいたしました。読者の方々にもちょっと知的な話題として興味を持っていただけたならうれしいです。今後もこの共通テストから目が離せませんね～。

もっと詳しい問題解説･講評は文理スクールHPをご覧ください

※7



外国人から見た日本文化が題材。外国人の目には日本文化がどのように写っているのか？



ブラジルの人気フルーツだそうですが、みなさんはご存知ですか？

リサイクル販売や血中酸素濃度を題材にするなど身近な出題も

ご存じですか!?

大学入試の変遷

大学入試の歴史は以下の通りです。

1949 年：１期・２期校制
1979 年：共通第１次学力試験
1990 年：大学入試センター試験
2021 年：大学入試共通テスト

時代の変化に合わせて、20～30年に1度変わってきたんですね～。